

科目区分：小学校教科科目

授業科目名：初等音楽

音楽の楽しさを味わい、表現するために

音楽教育講座 井上 洋一

1 授業の目的

本授業は小学校教員免許状取得に必要な科目であり、小学校教員として身につけておくべき音楽表現の基本的な技術を修得することを目的としている。

2 授業の到達目標

- (1) 小学校教科書掲載程度の楽曲のピアノ伴奏ができる。
- (2) 小学校教科書掲載程度の楽曲の弾き歌いができる。
- (3) 音楽を愛好する心を演奏を通じて表現できる。

3 授業の概要

全科指導が原則である小学校では、教師の音楽経験にかかわらず、音楽科の授業を担うことがあたりまえである。本授業では、小学校音楽科の指導に必要な最低限の音楽理論、ピアノ演奏法と歌唱法の基礎知識および演奏技能獲得を目指している。そのため、授業の中心的内容は、小学校音楽の教科書等に記載された楽曲の楽譜を読むこと、そしてピアノで伴奏しながら主旋律を歌うこと(弾き歌い)である。

学習指導要領における音楽科教育の目標は、小学校から高等学校まで「音楽(高校では芸術)を愛好する心情を育てるとともに、感性を育て(中学校では豊かにし、高校では高め)…豊かな情操を養う。」と一貫している。特に小学校においては、各学年の目標においても、「楽しい音楽活動を通して」「音楽表現の楽しさに気付く」「音楽の楽しさを感じ取って」といった表記が繰り返されているように音楽の楽しさが重視されている。

本授業においても、前項、到達目標(1)(2)を達成した上で(3)の内容に到達すること、すなわち受講者自らが音楽の楽しさを味わうこと、そして、それを子どもたちに伝えるための表現力を身につけていくことが何より重要であると考えた。

4 授業の実際

(1) 実態

音楽科教育講座では、2年生後期「初等音楽」に履修登録した学生(100名前後)を7クラスに分け、教員全員で分担して指導を行っている。教員

一人当たり(1クラス)の平均人数は14~15名である。90分の授業内で全員に、細やかな個人指導を行うことは難しい。

(2) 授業改善の具体策① 学習形態と時間配分

効率的な理論指導、個に応じた実技指導、さらに楽しい音楽活動を取り入れるために、クラスをさらに4~5人の3グループ(雪・月・花グループ)に分け、全体・グループ・個別指導を並行して行う授業を考えた。次は、90分(本授業を行った2限目)の授業の流れである。

○10:30~10:50【全体指導】

受講票配布・全体指導(楽典・発声法・合唱)

○10:50~11:50【グループ別個人レッスン】

①10:50~ 雪G

②11:10~ 月G

③11:30~ 花G

} 各回ローテーション

※一人当たりの指導時間は4分程度。同じグループ内では他の個人指導を聴講するとともに、伴奏に合わせて児童役になって一緒に歌う

※同時間に、個人レッスンを行っていないグループは個人練習室での個人練習やグループ発表に向けた打ち合わせ・練習を行う、

○11:50~12:00

音楽演習室【全体指導】

追加指導・受講票提出・諸連絡



個人レッスン

(2) 授業改善の具体策② 発表方法と内容

音楽の楽しさは、他者との共感によってこそ、大きなものとなる。グループ指導の中で毎回、個人で弾き歌いを行うが、グループの他の受講生が児童役として一緒に歌うこととした。

また、実技試験として中間発表会、最終発表会の2回の発表場を設定した。中間発表会では、グループ発表、最終発表会では弾き歌いの個人発表とグループ発表を課して評価した。

受講生によって、ピアノと歌の得手不得手は様々であるが、グループ発表では、それらを踏まえて各グループとも役割やパートを分担し、まとまったパフォーマンスを工夫して発表する。合唱、ギターや簡易楽器を加えたアンサンブル、短い音楽劇仕立ての発表など、個性的な発表はみている方も楽しい。



グループ発表

5 授業評価

(1) アンケートによる授業評価

最終回の授業において、授業全体を振り返らせ、12項目のアンケートを実施した。

- | | |
|----|--------------------------------|
| 1 | シラバスに示された授業内容であった。 |
| 2 | 専門科目として「初等音楽」を学ぶ意味が理解できた。 |
| 3 | 実技の指導や説明はわかりやすかった。 |
| 4 | 練習曲や選曲や配付した教材は適切だった。 |
| 5 | 小学校教科書程度の教材の伴奏の技能は身についた。 |
| 6 | 小学校教科書程度の教材の弾き歌いの技能は身についた。 |
| 7 | 音楽を愛好する心を、演奏を通じて表現できるようになった。 |
| 8 | 自分なりに意欲をもって授業にのぞんだ。 |
| 9 | 「初等音楽」の授業は自分にとって役に立った。 |
| 10 | 教育実習にいく際の自信ができた。 |
| 11 | 授業時間外の練習の時間はどれくらいか？ |
| | 週平均（約 時間） |
| 12 | 授業の自由な感想、よかったところ、改善したらよいところなど。 |

質問1～11は、4：そう思う、3：おおよそそう思う、2：あまり思わない、1：まったく思わない、の中から最も近い考えを選択させた。

質問11は、授業時間外の練習時間（週平均）を具体的に記入させ、質問12は自由記述とした。

質問1～11は質問の意図から次の表のように区分できる。このうち、教育学部のディプロマ・ポリシー（卒業時の到達目標）に関わる項目は、質問2～4【DP1 知識・理解】、【DP3 技能・表現】および8～10【DP4 関心・意欲】である。

次の表は、各質問の回答者数と平均である。

| 区分・DP | 質問 | 4 | 3 | 2 | 1 | 平均 |
|--------------|----|------------|---|---|---|-----|
| シラバス | 1 | 14 | 0 | 0 | 0 | 4.0 |
| DP1 知識・理解 | 2 | 13 | 1 | 0 | 0 | 3.9 |
| | 3 | 13 | 1 | 0 | 0 | 3.9 |
| | 4 | 14 | 0 | 0 | 0 | 4.0 |
| DP3 技能・表現 | 5 | 10 | 4 | 0 | 0 | 3.7 |
| | 6 | 10 | 4 | 0 | 0 | 3.7 |
| | 7 | 13 | 1 | 0 | 0 | 3.9 |
| DP4 関心・意欲 | 8 | 13 | 1 | 0 | 0 | 3.9 |
| | 9 | 14 | 0 | 0 | 0 | 4.0 |
| | 10 | 9 | 5 | 0 | 0 | 3.6 |
| 授業外学習 | 11 | 週平均 2.9 時間 | | | | |

（提出14名 受講生14名 回収率100%）

6 考察と今後の課題

2, 1の回答が0, 全項目で平均3.5以上という結果となり、これまで行ってきた授業評価アンケートの中で、最も良い結果となった。特に今年度の受講者が、音楽経験を多く持っていたり、ピアノや歌の演奏技能に優れていたりというわけではなかった。（第1回の授業で楽器を習った経験、音楽部活動の所属歴等をアンケート調査している。）

授業者として感じた今年度の特徴は、学籍番号で分けた3グループが偶然にも全く違った個性をもっていたこと、一人だけではあるが、学部時代に音楽文化コースに所属していた大学院生が履修していたことである。このことにより、他のグループの発表が新鮮で楽しいものになり、音楽に堪能な院生が模範演奏を示し、あこがれの存在になってくれた。

DPに関わる評価としては、【DP1 知識・理解】の項目において、授業者が選曲した教材集が適切であったこと、【DP3 技能・表現】の項目中、「音楽を愛好する心を表現できるようになった」が高い評価であったことは、本授業の目標や授業者の意図にそう望ましい成果であった。

一方、質問5, 6の技能習得に関しては、若干名3の回答があり、その結果が質問10の教育実習への不安に関連していると思われる。

初等音楽は、3年前期開講の初等音楽科教育法を経て、教育実習につながるが、授業担当教員や附属学校教員との連携によって、今後もできる限りのサポートをしていきたい。